

『もりおかの短歌』冬の部

一般部門 優秀賞十首

はあはあと吐く息荒い
は いきあら

雪はらい
ゆき

眼鏡はくもりマスクも凍る
めがね こお

盛岡市 赤坂 昌信

雪積る枝に
ゆきつも えだ

小さき蕾もつ
ちい つぼみ

石割桜よ春にまた見ん
いしわりざくら はる み

千葉県浦安市 岩田 一

雪しろき岩手山嶺
ゆき いわてさんれい

照りかへり山巒かげり
て やまひだ

夕暮れんとす
ゆうぐ

奥州市 遠藤 カオル

御所ダムの水面は ごしよ みなも

冬ふゆの山々を映して やまやま うつ

とても永遠えいえんだった

北海道札幌市 小野寺 弘泰

時超えて ときこ

希望与えしSLの きぼうあた えすえる

光輝く冬の盛岡 ひかりかがや ふゆ もりおか

盛岡市 川村 佳子

しらじらと明あけくる空そらに岩手山 いわてさん

雪に耀う ゆき かがよ

姿すがたあらわす

盛岡市 櫻井 知意子

大雪おおゆきのあとは青空あおぞら広がひろりて

運命さだめと思おもひ

雪搔ゆきかきをする

盛岡市 中島 久光

原敬はらけいの産湯うぶゆの水みづを汲くんだ井戸いど

静しずかにたたずむ

雪積ゆきつもる庭にわに

盛岡市 西川 政勝

啄木たくぼくの詩しに古賀こがメロデーひびー響ひびきたり

時報じほう鳴る街まち

雪ゆきは降り積ふむ

盛岡市 堀米 公子

純白じゅんぱくの朝あさの光ひかりに誘さそわれて

今朝けさも足向あしむく

不来方こずかたの城しろ

盛岡市 渡邊 定夫

冬の部（ジュニア部門） 優秀賞

（応募時、中学生以下に限る）

スキー場すべってみると
じょう

なめらかで雪がまるで
ゆき

そば粉のようだ
こ

東京都立川市 河田 心（十一歳）

手のひらの
て

光る結晶姿変え
ひか けっしょうすがたか

御所湖の光つなぎたる雪
ごしょこ ひかり ゆき

東京都渋谷区 小久保 晴（十二歳）

【講評】

一般部門・ジュニア部門

ニューヨーク・タイムズが発表した「2023年に行くべき52か所」に、盛岡市がロンドンに次いで2番目に紹介され話題となっています。灯台もと暗し、という諺がありますが、今回の件はまさにそれを表した出来ごとです。短歌の素材も、これまで詠まれた以外にもまだまだ多くあると思います。「冬の部」に応募していたただいた歌は、素材としては目新しいものはありませんが、作者の身に引き付けた歌が多く好感を持ちました。

令和五年三月選 冬の部

投稿数 七十二首

選者 山本 豊